



CLINICAL PATH NEWS

Japanese Society for Clinical Pathway
日本クリニカルパス学会

No.
30

発行日
2013年9月30日

in スコットランド

グラスゴー便り

～ EUROPEAN CARE PATHWAYS CONFERENCE 2013～

2013.6.20～21

岐阜大学医学部附属病院
白鳥義宗

6月20日～21日に英国内のスコットランドにあるグラスゴーというところで、ヨーロッパパス学会(EPA)の学術集会(EUROPEAN CARE PATHWAYS CONFERENCE 2013)が開催されました。スコットランドは英国の北部に位置しており、日本からは飛行機で14時間くらい掛かります。6月というのに最低気温は5度前後で、セーターやコートが欲しくなります。夜は10時頃まで明るいなど、ずいぶん環境が違い、もちろん食事・文化・習慣などにも違いが認められます。しかし治安は良く、日本とは「少し違う」ということさえ頭の中に入れておけば大きな問題はありません。

2日間の学会は、町の中心にあるホテルで行われましたが、日本で言えば大きめの研修会のような感じです。全員がひとつの会場に集まって聞く有名な方の教育講演と、いくつかの会場に分かれて行うワークショップが午前・午後内容を変えて行われます。その間にポスター会場に行ってはポスターを見るという形式です。さらに初日の夜8時にはテーブルに座ってフルコースのディナーを食べながら、各国の参加者と会談(懇親)するという場も設けられました。



私は初日午後のワークショップのひとつで20分間の講演を行ってきました。みなさんととてもフレンドリーで、発表後はもちろん、発表前から質問をもらっていました。1. どうしたら電子パスはうまくいくの?、2. なぜこんな仕組みをあなたは考えたの?、3. 紙と電子でのパスの違いは?、4. 電子的にバリエーション分析はどうしているの?、5. 電子カルテ、電子パスはこの先どういう進歩をとげていくの?、日本で聞かれる内容と全く同じです。関心のあることは万国共通なのだと思います。逆に私は、「ヨーロッパの医師達はパスを喜んでやってくれるのか?」と、大病院の看護部長のような方に質問したところ、「そんなことはない。面倒だ!と言われる。でも、うちの病院はmust(やらなきゃだめよ)と言っている。」と聞いて、どこの国でも同じようなことが起きているのだ。という思いを強くしました。

パスに関してヨーロッパでは、いよいよ多国間で同じシステムを導入するトライアルが始まりました。うちの国でもやろうとするとどれくらいの準備期間とかお金が必要か?

という質問が出ていました。国が違うのではなく、県が違うくらいの感覚です。一方日本は、県ごとに違う地域連携パスが走っていますし、院内パスもメーカーごとに違う。まさにガラバゴス化しているように思えて仕方ありません。いろいろなことについてオールジャパンで備える必要があるのではないのでしょうか？電子パスの日本標準化、出来ればその先にヨーロッパなど世界のパスとの統一化が出来るといいですね。今から世界のパスを見据えて日本の標準化をするというのもひとつの見識かもしれません。これだけ一生懸命パスのこと、電子カルテのことを議論している人達が日本に大勢いることを、もっともっと世界の人達に知ってもらいたいものだと思っています。勉強不足で、英語の苦手な私でも、回数を重ねることで国際学会も何とかなっています（つもりです）。「言葉よりも内容」それが学会と思っているので、来年は多くの人達で日本の紹介をしたいものだと思って帰ってきました。

是非みんなで日本の良い点を紹介していきましょう！



in 東京・大阪

2013 年度クリニカルパス 教育セミナーに参加して

2013.7.6、7.20

福井総合病院 吹矢三恵子

7月6日（土）東京セミナー、7月20日（土）大阪セミナーと、いずれも定員超えの大盛況の中で行われました。今年度は東京セミナーでは座長として、大阪セミナーでは参加者として参画させていただきました。

今回の内容は「アウトカム志向のパス運用と記録」、「クリニカルパス電子化のポイント・落とし穴」、「院内に広げるパス活動」、「地域連携パス」について、講師の先生方はそれぞれ違いますが、同じ内容でご講演いただきました。

「アウトカム志向のパス運用と記録」では、済生会熊本病院の森崎真美先生と、大阪市立大学医学部附属病院の井内郁代先生に、アウトカム用語の定義付けや看護記録の位置付け、パスにおける記録のポイントなど、記録として活用するための要件などをご講演いただきました。またバリエーション分析に活用するため、データが取れる記録が重要であるとのことでした。

「クリニカルパス電子化のポイント・落とし穴」では、四国がんセンターの河村 進先生と、済生会熊本病院の町田二



郎先生がご講演されました。電子カルテの導入が進む中、電子化への疑問や期待についてと、電子化する上での大事な考え方についてご説明いただきました。特に用語の整理は重要で、観察項目や、判断基準の整理・登録などの標準化をすることが重要であると話されました。本学会監修の Basic Outcome Master (BOM) の紹介も少しあり、討論での質問用紙には“BOMについてもっと知りたい”との意見が多く書かれていました。

「院内に広げるパス活動」は、国保旭中央病院の松永高志先生と、トヨタ記念病院の岡本泰岳先生のご講演でした。松永先生は、楽しくパス活動が行えるような工夫をお話しされました。また、岡本先生は多くの施設の工夫やアイデアを紹介し、教育体制やサポート体制などとして取り入れることが出来る、参考になる内容でした。

「地域連携パス」は、武蔵野赤十字病院の田中良典先生と、北野病院の重田由美先生のご講演でした。地域連携パスを活用することにより、二人主治医制が機能し、“患者は二人の主治医の存在の意義を自覚し、安心した継続診療に繋がると”ということをお話いただきました。

両会場とも参加者が大変熱心で、総合討論では多くの質問が寄せられました。また講師の返答を一生懸命メモし、自施設でのパス活動に繋げようとしている方が多く見られました。

企画・広報委員会では、今後も皆様のパス活動に役立つセミナーを企画していきますので、ぜひご参加ください。

in 大阪

クリニカルパス教育セミナー (大阪)に参加して

2013.7.20

高の原中央病院 森田喜枝子

学会主催のパス教育セミナーに参加してきました。当院も電子カルテを導入して約1年が過ぎようとしていますが、課題は山積みです。電子カルテの稼働はあっても機能や運用が上手くいかず、他施設の作成や運用方法などの工夫点を聞きたいと考えていましたので、今回の「クリニカルパスを役立てよう！広めよう！～実践ノウハウ～」には興味深く参加してきました。

井内先生が話された“アウトカム志向のパス”ではガイドラインやマニュアルの確認と見直しを行い、用語とパス構造の標準化をしていく。そしてクリニカルパスを運用するためにはPDCAサイクルを回していくことが必要不可欠であり、今後のパス活動を見直していく過程で「振り返る・気付く・気付かされる」ということが、より良いパス活動に繋がると思えました。

それ以外にも町田先生には“クリニカルパスと電子化のポイントと落とし穴”について、紙パスから電子パスに切り替えるときは夢と期待でいっぱいだったと思うが、ベンダーによっての操作性の違いがあり、実際には何度もクリックする必要があったりと、機能の違いを理解していく必要があることを教えていただきました。

また岡本先生は、何から実行していけば良いのかを「カレライスを作ろうパス」というユニークな発想で講義をされ、現実的で理解しやすい内容は判り易く、ためになりました。そして先生の資料の最後は、元トヨタ自動車の会長・副会長の言葉を引用した「何も変えないことが、最も悪いこと」「成果は、志の高さと情熱の掛け算」と、心に響く言葉で閉められていました。パス活動推進の工夫とアイデアはこのあたりから来ているのかもしれませんが。

4時間の教育セミナーはどれも無駄なものではなく、最後の質疑応答で印象に残ったのは、パス活動を正しい方向に導くためには「ローカルルールを破る」「いやローカルルールでもいいんだ、可視化されていれば」の言葉でした。ここから再スタートしよう、“出来ないから出来ることを探して行こう”と今後の活動を前向きに捉えることが出来ました。

このたび、400名を超える大勢の方が教育セミナーに参加して、全国的にも注目の集まる内容だと改めて実感させられました。そして日本クリニカルパス学会や講師の皆様には、新たな知識を得る機会を頂き、有難うございました。



リレーエッセイ 第24回

キューピットは地域連携パス？！

山形県立鶴岡病院 三原 美雪
山形県鶴岡地区医師会 医師会長 三原 一郎
(友情出演)

皆様こんにちは、三原美雪です。山形市にある県立中央病院から鶴岡市にある県立鶴岡病院（精神科単科病院）に転勤して、2年半が過ぎようとしています。新卒以来ずっと中央病院だった私が、ここ鶴岡に嫁に来て、しかも初めての転勤になろうとは夢にも思いませんでした。ちなみに山形市と鶴岡市は月山越えの山道で約100Kmの距離があります。

人は皆、もしもあの時…？と思いつくことがあると思いますが、「もし私がパスと出会わなかったら、今、ここにいないだろうなあ」と思います。

私とパスとの出会いは平成11年でした。手術室勤務を経て10年ぶりに一般病棟に配属になった年でした。しかも看護記録委員を任せられ、久しぶりの看護実践にも看護記録にも悩み、途方に暮れていました。

手術では何度も見てきた耳鼻科の病棟でしたが、術後の状態が把握できず、なにが重要で、何を記録すればよいのかわからず、ほとんど一人夜勤のような状態では相談できる先輩もなく、唯一の情報源である患者さんは、気管切開やセデーションで喋ってくれず、夜勤は暗闇のなかで手探りをしているような状態でした。また「じゃあ明日退院ね」といった「びっくり退院」がまかり通っていました。そして、経験の浅い私にはびっくりでも、ベテランの看護師には当たり前前ということも知りました。また眼科は様々な書類や細々した作業が多く煩雑で、同じ作業の繰り返しに効率化を切望していました。

そんな時、済生会山形病院で、済生会熊本病院の須古博信先生と看護部長の「クリニカルパスとは」という御講演を拝聴しました。これがまさしく「私とパスとの出会い」でした。闇の中に光を見た、目からうろこの衝撃、パスこそ私の救世主と感動しました。パスに魅せられた私でしたが、病棟でパスもどきに取り組んでは却下され、挫折を繰り返して、看護師だけで作成したパスもどきの看護手順書ではだめなんだということを知らされました。

それから2年後の平成13年、中央病院は新築移転し、クリニカルパス推進委員会が発足したのです。私は小躍りし委員に手を上げました。私はまず白内障パスを作成しました。中央病院第1号パスです。これでびっくり退院はなくなりました。煩雑な業務も改善されました。それからはひたすら、「患者、家族と共に多職種協働のチームで、同じゴールを目指そう」というパスの理念のもと、パスの作成、

改訂、教育、啓発、管理等に取り組み、マネジメントはじめ様々な分野を学ぶことができました。後先考えず周りを巻き込み突き進む私を暖かく見守ってくださったパス委員長の副院長や理解ある元看護部長には、今改めて感謝しています。さぞかしハラハラなされたことだったでしょう。

「めげない、くじけない、あきらめない、いつも笑顔で」「情報を知識に、知識を知恵に、知恵を行動に」をモットーに、パスは良い医療を提供するための素敵な道具と信じて、時にはくじけそうになり、何度となくめげては良品仲間



三原一郎先生、三原美雪さん

支えられ、それでもあきらめないで地道な活動を続けたところ、平成20年には念願かなって「パス専任ナース」として仕事ができるようになりました。専任としての3年間、貴重な経験と更なる学びを得ました。現在は頼もしい後輩が専任

を引き継いでくれています。

パス活動を続けてきたなかで、なによりの宝は「多くの素敵な人たちとの出会い」です。院内でも、パスがなかったら知り得なかったであろう幅広い職種の皆さんから教えていただきました。そして全国で優しくて熱いパスの仲間が笑顔で頑張っているということ、そんな皆様にお会いできたこと、それが私の元気の源です。そして鶴岡で、また地域連携パスで、その出会いの幅が大きく広がっていることが嬉しく、これからの未来がもっと楽しみです。

最後に、ちょっとだけのろけますが…ある地域連携パスのシンポジウムで初めて、夫である三原一郎と出会いました（これが一番の出逢いかな～）。彼は鶴岡地区医師会で、地域連携電子カルテ「Net4U」を基盤に過去13年に渡り在宅を中心に連携の輪を築いてきました。鶴岡のあついで連携のお話はまた別の機会に譲りますが、夫と私のキュービットはまさに「地域連携パス」なのでした～（照）。パスに、皆様に、夫に、心から感謝です。ありがとうございます。これからもどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

次は長野県の小諸厚生年金病院で10年以上パス専任ナースとしてご活躍の笑顔の素敵な小林美津子さんにバトンを渡します。

事務局より



第14回 日本クリニカルパス学会学術集会

会期：2013年11月1日（金）、2日（土）

会場：マリオス【盛岡市民文化ホール・盛岡地域交流センター】
アイーナ【いわて県民情報交流センター】

テーマ：『患者中心の医療の展開』

会長：北村道彦（岩手県立中部病院 院長）

プログラム：特別講演、教育講演、シンポジウム、パネルディスカッション、プレコン
gressワークショップ、一般発表、ランチョンセミナー、パス展示など

事前参加申込期間：平成25年5月1日（水）～9月30日（月）

参加費：事前登録費：8,000円 当日参加費：10,000円 懇親会費：5,000円

※学術集会の詳細に関しては、

<http://square.umin.ac.jp/jscp14> をご覧ください。

日本クリニカルパス学会資格認定制度のご案内

日本クリニカルパス学会では、資格認定制度を発定させることになりました。

資格は、パス認定士・パス指導者・パス上級指導者の3段階制で、平成25年度より

教育研修を開始し、第1回の資格認定は平成28年度に行います。詳細に関しては、

日本クリニカルパス学会ホームページ http://www.jscp.gr.jp/shikaku_nintei/index.html をご覧ください。

第14回 日本クリニカルパス学会
学術集会
～患者中心の医療の展開～
日時 2013年11月1日(金)・2日(土)



会長 北村 道彦 (岩手県立中部病院院長)
会場 岩手県盛岡市
盛岡地域交流センター マリオス
岩手県民情報交流センター アイーナ